

全国高校文芸コンクール

3人2団体が入賞

「第30回全国高等学校文芸コンクール」(公益社団法人全国高等学校文化連盟、読売新聞社主催、

文化庁ほか後援、公益財団法人一ツ橋文芸教育振興会協賛)の入賞者が決まった。

県内からは、俳句部門で横手(定時制)4年の野表佑さんが優秀賞、短歌部門で本庄2年の豊島桂さ

んが優良賞にそれぞれ輝くなど、3個人2団体が入賞を果たした。

入選・奨励賞の受賞者・団体は次の通り。

【俳句部門】

▽入選 西村千咲さん(秋

田西3年)

【文芸部誌部門】

▽奨励賞 秋田・文芸部、

横手・文芸部

背伸びせず遊び心で

俳句部門・優秀賞

野表佑さん

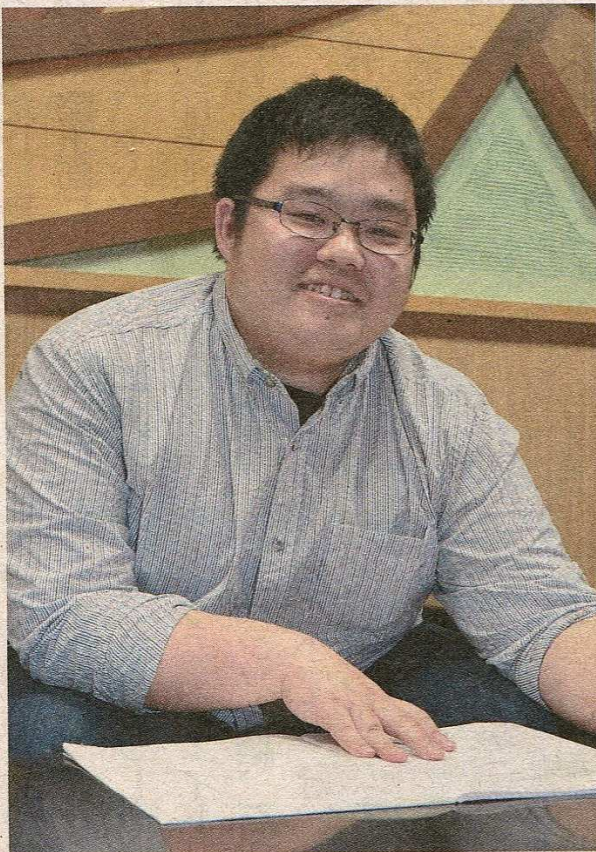
(横手定時制4年)

箱眼鏡 空を見るには
小さくて

「俳句の経験が少なかつたため受賞できないだろう

と思っていた。だから受賞した実感がいまだにわいていない」と冷静に受け止める。

興味本位で横手高定時制課程の文芸同好会に入ったのは今年4月。それまで句を詠んだ経験はなく、どのような季語があるのかを歳



時記で調べることから始めた。

自分や他の人が作った句を詠んでも上手かどうか

判断できなかった。だが、「短い文字数の中で作品を考えるのはおもしろい」と魅力にとりつかれてからは、空き時間の中でスマートフォンメモ帳に俳句を書き残していき、腕を上げた。

一つの句の中で「対比」表現を用いる技法をインターネット上で知り、早速使ってみた。俳句部門のテーマが「水遊び」だったことから、箱の底にガラスをはめて水中を見る「箱眼鏡」という夏の季語を使おうと決め、対比する表現として「空を見る」を思いついた。「背伸びしないで、自分で作りたいと思う句を遊び心を持って考えた。俳句を始めてから日が浅く、型にはまらない句を作れたことがよかったのかもしれない」と振り返っている。